

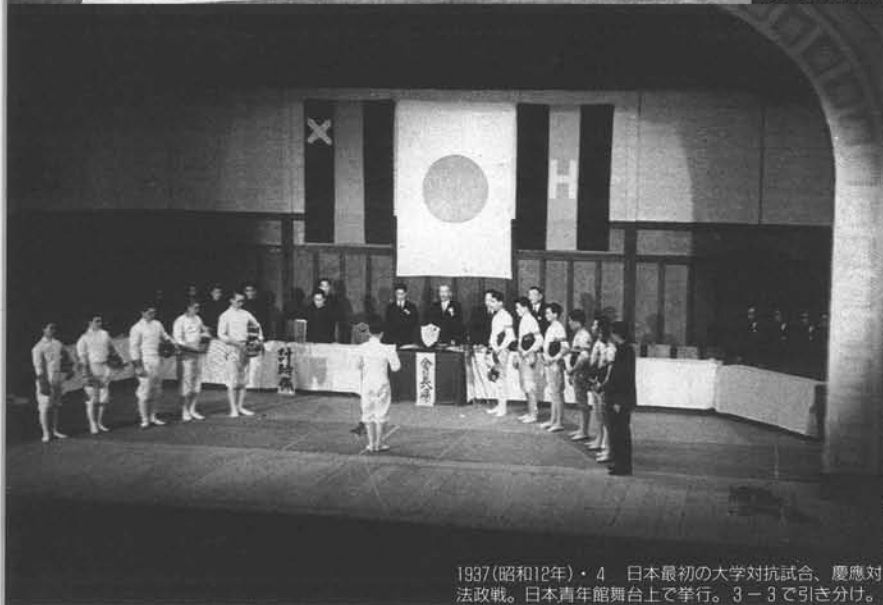
フェンシング部



1988(昭和63年)・5 関東学生リーグ戦(2部)フルーレの部。対国士館戦。慶應B-B国士館。被突致で本塾の勝ち。この後サブル、エベも善戦して2部優勝、1部に昇格。



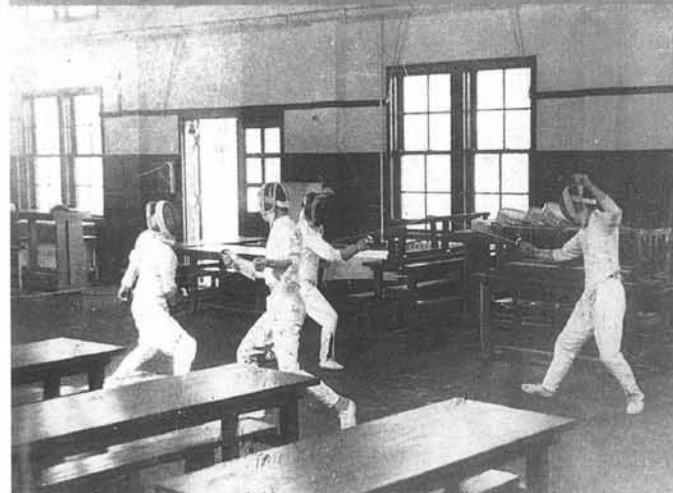
1937(昭和12年)・3 日本最初のフェンシング試合。慶應対大阪クラブ戦出場の面々。1-5で敗北。



1937(昭和12年)・4 日本最初の大学対抗試合、慶應対法政戦。日本青年館舞台上で挙行。3-3で引き分け。



1937(昭和12年) 草創期の練習風景。晴れの日には戸外で(日吉の予科校舎入口と予科校舎前)。雨の日には食堂のテーブルを片づけて。



1937(昭和12年)・3 慶應対大阪クラブ戦の招待状。

一、日時 昭和十二年三月二十一日(日)午後一時より
 二、場所 大阪YMCA体育館(四馬路土佐通二丁目)
 本場券は当日発行に御注意の上候

主 催 大阪YMCA体育
 後 援 大阪朝日新聞社

第1回 法政対慶應
 フェンシング試合
 日本青年館

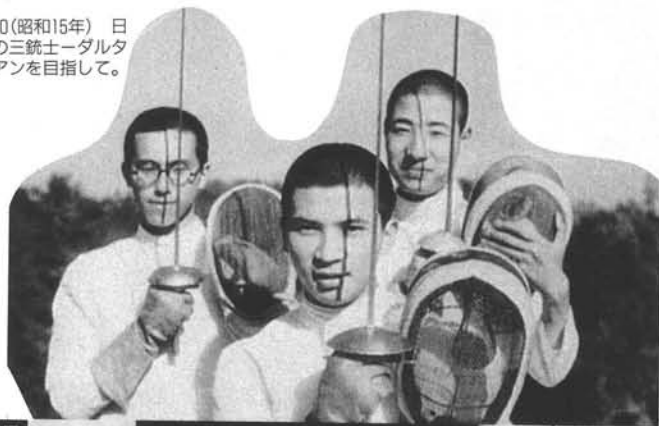
No. 242
 4月23日(金)
 午後6時

第1回慶法戦の学生入場券。料金は30銭。



1938(昭和13年)・夏 鎌倉、平沼別邸で夏期合宿を行った第1次隆盛期の部員たち。

1940(昭和15年) 日本
の三銃士—ダルタ
ニアンを目指して。



1950(昭和25年)・12 第3回慶早
戦。初勝利のカップを抱いて。



1951(昭和26年)・7 1部リーグ昇格の大祝賀会。



1956(昭和31年)・3 辛い合宿後の楽しいひととき。堂ヶ島に遊ぶ。



1954(昭和29年)・4 第4回慶同戦。慶応2-1同志社。



1954(昭和29年)・8 フルレー戦を男・女・高校
の部すべて、本塾の部員が制覇した札幌国体。



1957(昭和32年)・8 部員が出場した第5回ユニバーシアード・パリ大会フルーレ戦。



1958(昭和33年)・11 第11回慶早戦。慶應2-1早稲田。



1970(昭和45年)・12 全日本学生選手権大会(大学対抗戦)サーブル団体決勝戦に出場した部員たち。戦績2位。



1973(昭和48年)・6 塾より選手およびコーチとして現役。OB各1名が出場したスエーデン・ヨーテボリの世界選手権大会練習場風景。壁には中世時代の刀や槍が飾られている。



1960(昭和35年)・秋 念願の専用道場が日吉に建ち、練習にも一段と熱が入る。

1935 前々年にフランスから輸入されたフェンシングをいち早く習得した塾生平沼五郎により、日本最初の大学フェンシング・クラブ「慶應フェンシング・クラブ」が誕生する。当初の部員は3名。初代部長武村忠雄助教授。練習場は金杉橋にあった名倉堂剣道場だった。

1936 部員らの働きかけにより、日本にフェンシング協会誕生。部員も役員に加わる。

1937・3・28 日本初の公開試合を大阪クラブと行う。慶應1-5大阪クラブ。／4・23 日本初の大学対抗試合を法大と行う。慶應3-3法政。試合は明治神宮外苑の日本青年館の舞台上で行われ、有料で公開された。この試合を機に東大、明大、専大等の大学にクラブが続々誕生。／10 慶法専東の4大学で初のリーグ戦が行われる。慶應2勝1敗で2位。

1938・4 塾内対抗競技部新種目団体に加盟。

1939 部員が20名余りに増え、第1次隆盛期を迎える。／6・25 第2回慶法戦3-0で勝利。／10・15 5大学(慶法明専東)リーグ戦優勝。／11・6 第1回関東選手権大会で個人戦3種目とも部員が優勝。3名が2-3位入賞。／11・26 第2回全日本選手権大会団体戦およびサーブル個人戦優勝。フルーレ個人戦2位。

1940・9・21 第2回関東選手権大会フルーレ個人戦優勝。／10・19 全関東団体リーグ戦優勝。／11・9 関東5大学リーグ戦優勝。／11・23 第3回全日本選手権大会団体戦およびフルーレ、サーブルの個人戦優勝。他に4名が2-5位入賞。

1941・5・17 全関東団体リーグ戦優勝。

1942 部員の大半が学徒出陣で不在となり、休部状態になる。

1945・8・15 終戦。

1946 大学に復帰した部員有志により、秋頃

祝 慶應義塾体育会フェンシング部創部50周年



1986(昭和61年)・10 創部50周年記念祝典。昭和16～30年卒業のOB・OG出席者。



1988(昭和63年)・6 リーグ1、2部入替戦で早大を敗り、1部に昇格が決定した瞬間。



1991(平成3年)・3 茨城県高萩市の春合宿のひとこま。

から練習再開。練習場には進駐軍の日本武道禁止令により休部状態にあった剣道部の三田綱町道場が当てられ、ここに創部以来初めて専用道場を持つにいたる。

1947 春、慶法名立早の5校でリーグ戦(フルーレのみ)復活。しかし、部は低迷期で5校中4位。

1948・10・23 早大との定期対抗戦を開戦。第1回戦は10-18で敗北。/11・28 全日本選手権大会復活。部の低迷期は続き、OBのみが活躍(サーブル個人戦優勝)。

1949・4 体育会に加入、フェンシング部となる。部長今泉孝太郎教授。しかし、復活した全慶法戦にも、第2回慶早戦にも敗れる。OBは活躍して全日本選手権大会フルーレ個人戦優勝。

1950 リーグ加入校が9校に増えて2部制となり、1部リーグ最下位の慶應は2部に編入される。/12 第3回慶早戦で初めて早大

を敗り、低迷期を脱出。

1951・5・6 同志社大学との定期対抗戦を開戦。第1回戦は1-2で敗北。/6 関東大学2部リーグ戦優勝。入替戦で1部に昇格。リーグ戦はこの後26年間1部に定着して中間順位を保つ。/11・11 第4回慶早戦。慶應3-0早大、女子慶應2-0早大で完勝。

1952 この年より、現役、OB、OGが諸競技会で活躍する第2次隆盛期が約10年続く。/7 オリンピック・フェンシング競技に日本初参加。部OBが第1号派遣選手となる。リーグ戦で2位。/10 国民体育大会フルーレ女子個人戦で部OG優勝。

1953・10 国民体育大会フルーレ女子個人戦で部OG連続優勝。

1954・8 国民体育大会フルーレ男、女個人戦で部員がそれぞれ優勝。/11 全日本学生個人選手権大会エペ優勝。全日本選手権大会女子団体戦で現役・OG混合チームが優勝。

1955・7 初参加のユニバーシアードに部員2名が出場。/11 全日本学生個人選手権大会エペ優勝。

1956・3 全日本選手権大会エペ個人およびフルーレ女子個人戦で、現役、OGがそれぞれ優勝。/6 リーグ戦(10大学)で2位。/7 全日本学生王座決定戦エペ優勝。/11 国民体育大会フルーレ女子個人戦で部OGが優勝。

1957・8 ユニバーシアードに部員出場。

1958・3 全日本選手権大会女子団体戦で現役・OG混合チームが優勝。

1959・6 関東学生女子個人戦(フルーレ)で1～4位独占。/7 ユニバーシアードに部員出場。/8 オリンピック代表選考会フルーレ団体戦優勝。

1960・11 関東学生女子選手権フルーレ個人戦優勝。/秋 専用道場が日吉喰谷に建ち、10余年に及んだ仮道場生活から解放される。



1991(平成3年) 練習風景。上はフットワーク練習。左はフレッシュによるサーブルの「マスクカット」。



1961・1 全日本選手権大会フルーレ女子個人戦優勝。／7 ユニバーシアードに女子部員出場。／10 関東学生個人選手権エペ優勝。61年までの定期戦通算成績、慶早戦8勝6敗、慶同戦8勝3敗。
1962・3 全日本選手権大会フルーレ団体戦2位。／12 全日本大学対抗戦フルーレ優勝。リーグ戦は振るわないが新設の種目別大学対抗戦に好成績を残す時代が以後約10年続く。
1963・12 全日本大学対抗戦フルーレ団体連続優勝。エペ2位。
1964・6 全日本学生王座決定戦エペ優勝。／8 全日本選手権大会エペ団体戦2位。
1965・8 ユニバーシアードに部員出場。
1967・9 ユニバーシアード東京大会に部員出場。エペ個人戦で銅メダル獲得。／11 全日本大学対抗戦エペ優勝(小泉賞受賞)。サーブル2位。
1969・6 全日本学生王座決定戦サーブル優

勝(小泉賞努力賞受賞)。／11 関東学生個人選手権大会女子フルーレ優勝。
1970・10 関東学生個人選手権大会女子フルーレ優勝(小泉賞努力賞受賞)。
1973・6 世界選手権大会に部員出場(小泉賞努力賞受賞)。
1975 この年までの定期戦通算成績、慶早戦14勝14敗。慶同戦15勝10敗。
1976 リーグ戦女子2部優勝。1部に昇格。
1977 リーグ戦男子1部最下位。入替戦でついに2部に転落(26年ぶり)。この頃より部員数が減少し、数競技を除き成績低調の時期が続く。
1980・6 リーグ戦2部優勝、1部へ復帰。女子は1部から2部に転落。／10 関東学生個人選手権エペ優勝と2位。／11 全日本大学対抗戦エペ2位。
1982・6 リーグ戦最下位で2部に再転落。／11 全日本学生個人選手権エペ優勝。

1983・6 リーグ戦女子3部に転落。
1985・6 リーグ戦女子2部に復帰。
1986・10・4 創部50周年記念式典挙行。
1987・8 創部50周年記念行事として、アメリカよりプロ指導員招聘。1カ月間指導を受ける。
1988・6 リーグ戦男子2部優勝。1部へ復帰。
1989・6 リーグ戦1部最下位で2部に再転落。
1990・6 リーグ戦2部最下位で3部に転落。
1991・6 リーグ戦3部優勝するも2部復帰ならず。しかし、現役、OB・OGとなつての努力により、部員数が漸増、戦力も徐々に向上しているため、来期以降が期待できる。これまでの定期戦通算成績、慶早戦17勝26敗、慶同戦17勝24敗。